２０12年 7月10日
No 1238号
働くルールの確立で
人間性の回復を

明治乳業争議団 ニュース

発　行　明治乳業争議団
連絡先　〒272-0015
千葉県市川市鬼高2-6-2
☎・Fax 047-332-5698
E-mal　mjnyu88sgd@wing.ocn.ne.jp
ＨＰ　明治乳業争議団 ⇒ 検索

厚労省
「労使紛争は話し合いでの解決が望ましい」
― 各省庁への要請交渉 ―

食の安心・安全及び明治乳業争議の解決に関する再度の要請

セシウム汚染の広がりなど、食品の「安全・安心」を脅かす不祥事・不正行為の事件が後を絶たず、消費者は「何を基準に、何を信じて買い求めればいいのか」という不信・不安を募らせており、「安全・安心な食料を安定的国民に提供」すべき行政の責任も厳しく問われる状況にあります。

ところが乳業最大手の（株）明治は、「儲かれば何でもあり」とばかりに、雪印食中毒事件以降、その教訓に学ぶことなく「食の安心・安全」を脅かす食品衛生法違反などが23件も発覚しています。

こうした状況から、4月18日に行った厚労省要請では、①長期にわたり食品衛生法などの不祥事・不正行為が絶えない体質（２０００年以降、23件の不祥事）、②賃金差別や人権侵害などの労働争議が１９６０年代から絶えない体質（10件の争議、現在も3件が係争中）、③安全配慮義務違反などの死亡災害が絶えない体質（臨時社員など7人が死亡事故死）、などの改善指導を求めましたが時間制約もあり、不十分のまま終了。6月27日に再度、厚生労働省をはじめ、農林水産省、消費者庁、文部科学省にも行われたものです。

要請には、争議支援共闘会議議長の松本悟氏をはじめ、日本婦人団体連合会、新日本婦人の会市川支部、全教市川、年金者組合市川・浦安支部、年金者四街道支部、千葉労連、「日東整」争議、ネッスル日本労組、そして、明乳争議団、あわせて19名で行われました。要請交渉は3時間にわたって各省庁個別に行われ、それぞれの立場からの回答を求めました。

厚生労働省には、その他の省庁回答に大きく関連する立場から60分にわたって行われ、乳製品の放射能汚染検査数値の開示などを要請。労働争議については、「当事者間での話し合い解決が望ましい」などの回答があり、28年間も話し合いを拒み続ける、（株）明治の異常体質が改めて浮き彫りになる要請交渉となりました。

尚、要請交渉には前回に続き、日本共産党紙智子参議員が同席しました。

㈱明治 突如 団体交渉拒否
食品ユニオン 再開求めて申入れ

食品ユニオンと㈱明治の間で8回にわたって続けられてきた団体交渉について、明治は拒否する回答をしてきました。内容は、団交事項については「誠実かつ十分に協議、回答」したとして「継続する協議事項は存在しておらず、これ以上の必要性はない」とするものです。

拒否してきた発端は、団交事項に関わっていた山口組合員が退職。その後、会社は食品ユニオンに加入する明治在籍の従業員の有無をしつこく質してきました。これに対してユニオンは「明らかにする必要が生じた時には、その時点で必要な範囲において、その都度お知らせしたい」と回答。しかし、会社は「回答がない」として電話で団交を拒否してきたもので、拒否理由を大きく変へて再度拒否してきたものです。

食品ユニオンは、団交に実質的進展がなく、どの事項も継続されているとして、再開の申入れを2回にわたって書面にて提出し会社に回答を求めています。また在籍組合員の有無に関係なく、団交応諾義務があることを示して早期再開求めてもいます。

「山口損害賠償裁判」始まる

地域労組こうとうと食品ユニオン組合員の山口信人さんが、明治を相手に東京地裁に提訴している、年金受給をめぐる債務不履行と、以前に起こした裁判後の報復的パワハラへの損害賠償裁判（労働部）が開始され、すでに2回にわたって審理が進んでいます。

先般、会社は50㌻にも及ぶ反論の準備書面を提出し、全面的に争う姿勢を見せています。反論書では山口さんを「仕事ができない、ミスが多い、また他人（上司）のミスまで押し付ける」など、明治がおこなうウソの上塗り的常套手段が羅列されています。

原告側は東京東部法律事務所と東京法律事務所の4人の弁護士が担当し、被告側は「全国事件」を扱う小代弁護士が当っています。

次回3回審問＝8月8日（水）午後1時10分　地裁606号法廷。

明治ホールディングス株主総会
相変わらずの茶番劇

6月28日、第3回株主総会が行われ、争議団・支援共闘会議では、総会に先駆けて事前質問書を提出。

質問の骨子は、
①減収減益の経営責任。
②乳製品の放射能汚染検査という　社会的責任。
③長期労働争議前面解決への決断。

というもので、総会冒頭、放射能汚染問題では浅野取締役が補足説明で釈明し、「明治粉ミルク・明治ステップより放射能汚染があったが、その値は暫定基準値以下であったが、自主的に製品交換を行った」と答弁。しかし、「消費者の皆さんには大変ご心配をおかけした」などとも答弁。

結局、「民間団体からの放射能汚染を2週間も放置した責任には頬かむりを決め込む」など、隠ぺい体質が露呈する回答に終始しました。

また、減収減益の経営責任の質問には、答弁不能に陥り、一言の釈明もありませんでした。

いまや、放射能汚染では（株）明治の製品はアヤシイわね」などと、若いお母さんから噂されるなど、明治の乳製品が敬遠されていることへの反省のかけらもない対応でした。

また、明らかにヤラセの質問に多くの株主から失笑とヤジが飛ぶなど、将来を不安する、声が聞かれる有様でした。

支援共闘会議と争議団は、総会前の8時30分より、株主に向けて会場前2ヵ所でチラシ宣伝。

総会終了後の報告宣伝チラシ配布では、受け取った株主から「がんばれよ」の掛け声があり、大きな勇気をもらいました。

夏季物品販売へ
ご協力を

日頃からご支援に心より感謝申し上げます。
ただ今、夏季物品販売の取組みを行っております。
この度も、還元金から５％を震災義援金として扱わせていただきますので、
皆様方からのご支援をお願いします。
尚、冬季に於きまして7,772円全労連を通してお願いしました。

放射能汚染の隠ぺいや 長期労働争議の放置など、異常な企業体質を大きく包囲！

都労委「全国事件」への命令交付を間近に控える明治乳業争議団は、全面解決への道筋を切り拓く闘いに全力で取り組んでいます。

第一は、製品の放射能汚染を隠蔽するなど「外にバレなければ何でも有り」で、不祥事・不正行為を繰り返す（株）明治の企業体質を告発し、経営陣を社会的に孤立させる中で争議解決への道筋を切り拓く闘いです。

第二は、なんとしても都労委から救済命令を獲得する闘いです。争議団と支援共闘会議は、やるべきことは全てやり切って全面解決への局面打開をめざす決意です。

「5・31全労連・東京地評争議支援総行動」 明治HD社前で340名が怒りのシュプレ！

松平晃さんのトランペット演奏で始まった、明治HD社前での争議支援総行動最終メーン行動には、340名の支援者が結集し明治HDに争議解決の決断を迫りました。

都労委「全国事件」が昨年11月30日に結審となったことを受け、一気に全面解決へを目指しての最終メーン行動でした。残念ながら、命令交付は7月以降にズレ込みますが、頑なに「話し合い」を拒否している明治HDに対し、争議解決を迫るインパクトのある行動として成功しました。

私たちが、明治HD及び（株）明治に求めているのは次の2点です。第一は、放射能汚染から、特に「子供たちの健康・未来を守るために」、牛乳・乳製品の汚染検査を独自に行い、その数値を公開し消費者に選択権を保障すること。第二は、週刊東洋経済、実業界、サンデー毎日、週刊金曜日などメディアでも告発されているように、不祥事・不正行為を隠ぺいする（株）明治の異常な企業体質を是正することです。そのためには長期労働争議を解決し、消費者の信頼に応え得る健全な企業活動に脱皮することは、避けられない課題であることも明白なことです。

争議団と支援共闘会議は、今後も二重三重に明治HDを包囲し、なんとしても今秋からの闘いで、全面解決への道筋を切り拓く決意で頑張ります。総行動ご参加のみなさん、ご支援ありがとうございました。

「6・19明治HD包囲」銀座デモ 台風接近の中、「放射能から子供たちを守れ！」と200名の隊列

6月台風の列島縦断は8年ぶりと報道されるなど、雲行きが心配される6月19日でしたが、なんと「明治HD包囲」銀座デモがピシャリと的中してしまいました。

悪天候のなか午後6時過ぎから、デモ出発地点の日比谷公園中幸門には、熱い心の支援者が次々と参集され、「明治乳業争議団らしい行動日だ！」、「この程度の天気でひるんでは勝てないよ！」など等、明るいジョークや励ましを沢山いただきました。

風雨をついてのデモコースは、明治グループの筆頭株主「みずほ」本店→東電本社→銀座通り→鍛冶橋交差点→明治HD社前という、約40分コースを200名の隊列で行進しました。参加者はズブ濡れになりながらも、「東電はすべての補償を行え！・原発の再稼働は許さないぞ！・明治は放射能汚染を隠ぺいするな！・自主検査の数値を公表しろ！・労働争議を解決しろ！」など等と力強くシュプレを行い、銀座通りでは多くの通行人が足を止め注目していました。

過酷な状況のなか最後までご参加された皆様に、争議団一同は心から感謝感謝の気持ちで一杯です。

「6・20関西支援共闘会議が（株）明治関西支社へ要請行動」 若い社員を盾に、消費者団体・市民団体の要請すら拒否！

台風一過の6月20日、市民団体、民主団体や明治乳業争議関西支援共闘会議（議長：川辺大阪労連議長）は、（株）明治関西支社（クリスタルタワー：大阪市中央区）前で、午前10時から午後2時まで「座り込み」行動を実施。消費者団体、大阪労連などの要請団が、三回に及んでタワー36階の（株）明治関西支社に要請書を持って訪問しました。しかし、（株）明治は若手社員20数名を盾に、「お帰り下さい」のオームし返しで一切を拒否。参加者からは、「消費者団体、市民団体の要請すら拒否し、敵にまわすような明治に未来があるのか・・・？」など等、驚きと怒りの声が聞かれました。この行動には京都の申立人も含め50名余が参加し、首都圏からも松本共闘会議議長と小関争議団団長が参加し、連帯と争議解決への決意を述べました。

日本婦人団体連合会（婦団連）が乳業協会と懇談・要請 なんと、明治HDは婦団連の懇談申し入れ」をも拒否！

日本婦人団体連合会（会長：堀江ゆり、21団体90万人）の代表6名が、日本乳業協会の役員と懇談しました。「放射能汚染から子供たちの健康と未来を守る」要請書を示し、製品の出荷前独自検査を行い、「基準値以下でも数値を公表し消費者が安心して選択できるように各企業に働きかけること」等を強く求めました。

これは、（株）明治の学校給食用牛乳や粉ミルクからセシウムが検出された事件で、消費者が求めた汚染数値の公表や、汚染原因の解明などの一切を拒否した（株）明治の異常な対応に対し、特に若いお母さん方の不信・不安が強まる中での行動でした。しかし、乳業協会は「行政がモニタリング検査を行っていること」などを理由に、独自検査の必要性を拒否しました。

また、婦団連は同趣旨の「懇談申し入れ」を明治HDにも行いましたが、面会すら拒否する異常な対応だったといいます。消費者団体を含む広範な婦人団体の懇談・要請すら拒否する明治HDに、「安全・安心」が期待できるでしょうか。

残念なことです。

救済命令に向け最後の一瞬まで奮闘！ ― 要請行動で遺族の想いを伝える ―

結審から8カ月目となる全国事件（9事業所32名ですが、まだ命令交付期日が確定していません。争議団と支援共闘会議は、年明け早々から救済命令を契機に全面解決への道筋を切り拓く決意を固め、（株）明治と明治HDを包囲する運動と、救済命令に向けた毎月の都労委要請を継続。18回目の6月11日の要請では、夫の遺志を継承した遺族の陳述書を示し、救済命令を強く求めました。

全国64名の明治乳業争議団。すでに10名の申立人が他界していますが、夫の遺志を継いだ家族が争議団と心を一つに、早期解決を願って頑張っています。要請では、二口申立人（石川工場）の奥さんの陳述書から、「無能力者呼ばわりされたまま急逝した夫のことを考えると、本当に辛く残念な気持ちで一杯です」と紹介され、また、島崎申立人（大阪工場）の奥さんの手紙からは、「差別賃金のなかで生活費や医療費にも苦労した・・・」等の実情が紹介され、また、満席の傍聴者からも「なんとしても救済命令を！」との発言が続きました。私たちは、救済命令に向け最後の一瞬まで頑張ります。

●次回7月26日午後4時～。34階第三審問室：於二口申立人（石川工場）の奥さんの陳述